手紙No.28

*内容の説明*

*手紙No.28 - イギリス人はインド人の思想に同化することができない - KHはヒュームに率直に話す。TSに関する誤った考え - 普遍的な同胞愛の前触れとしてのTSの支部 - ブラザーたちによるオカルトの指導。ロンドンで魔法の秘密学校を設立する試み-完全な失敗 - リットン卿 - 名ばかりの普遍的同胞団の英国TSは、せいぜい静寂主義に引き寄せられているにすぎない。KHに対するシネットとヒュームの態度についての観察- 彼の真実の説明。ヒュームの手紙に書かれていることに対する徹底的な批判 - KHの動機の歪曲 - 完全な理解不足。この問題に対処したKHの忍耐と礼儀 - 静かな叱責 - インド人は精神科学の分野では常に西洋のマスターである。彼らが最も高く評価しているもの - マスターが求める、そして求めていないタイプの人 - 彼らの特徴。神聖な光の保持者-彼らの知識は神々の贈り物 - カント的ノート - ヒュームはこの時代の精神的な失敗と無意識のエゴイズムの型である。メスメリズムについての観察 - 良心が何をするか、何をしないか。意志と同様に想像力は、疑惑の怪物を作り出す。*

手紙No.28

｛KHからA.O.H.（ヒューム）への手紙}。

{最後ではなく最初の休暇。ヒュームは”Blavatsky Letters to A.P.S.”No.4でマハートマMが沈澱した（書いた）ように、勉強を再開し、その後1年間良い仕事をした。}

拝啓

もしも私たちの文通が、英国人とインド人という２つの対立する要素がいかに本質的に対立しているかを改めて示す以外に良い結果をもたらさなかったとしても、私たちが交わした数通の手紙は無駄ではなかったでしょう。どんなに知的で、気高く、誠実な英国人でも、ヒンズー教の秘教的な精神はおろか、秘教的な思想さえも同化させるよりも、油と水の粒子を混ぜ合わせるほうが早いです。これはもちろん、あなたを微笑ませるでしょう。あなたはこう言うでしょう。「私はこれを予想していた」。そうでしょう。しかし、もしそうだとしたら、それは自分の態度が引き起こすに違いない出来事を直観的に予想した、思考力と観察力のある人の洞察力を示しているに過ぎません。……

あなたの長い手紙について、率直かつ真摯に話さなければならないことをお許しください。いかに論理的であっても、いくつかのアイデアが高尚であっても、熱烈な願望であっても、私の目の前にあるのは、私たちが生涯をかけて戦ってきたこの時代の精神の鏡そのものなのです。あなたの言ったことはせいぜい、外的な世界のやり方で訓練された鋭敏な知性が、自分が扱っている世界とは全く異なる世界に属する、自分が知らない生活や思想の様式に光を当て、それを判断しようとする失敗した試みに過ぎません。あなたはつまらぬ虚栄心の持ち主ではありません。こう言ってもいいでしょう。「親愛なる友よ、これらすべてを別にして、あなたの手紙を公平に研究し、その文章のいくつかを吟味してみてください、全体としてあなたはそれを誇りに感じないでしょう」。あなたが私の動機を完全に理解するかどうか、あるいは私にこれ以上の手紙のやり取りを断念させる真の原因を誤解するかどうかは別にして、いつの日か、高貴な謙虚さを装い［弱点と失敗、欠点と愚行］を告白したあなたのこの前の手紙が、間違いなく無意識のうちに誇りの記念碑であり、すべての英国人の心の底に潜む高慢で強制的な精神の大きな響きであったことを告白してくれるものと確信しています。現在のあなたの精神状態では、おそらくこの回答を読んでも、私がこの前あなたに書いた手紙の精神を全く理解できなかっただけでなく、場合によってはその明白な意味を理解することさえできなかったということに、あなたはほとんど気づかないでしょう。そして私の回答の中に、それに対する直接的な回答を見出すことができず、じっくりと考え、個人的ではなく一般的に適用可能であることを確認する前に、座ったまま、パンを求めているのに石を与えたとすぐに私を非難したのです。単純な事実を述べるのに、今も昔も「弁護士」である必要はありません。真実はとてもシンプルで簡単に語られるのに、「悪い方を良い方に見せる」必要はありません。私の言った「秘密の知識に熟達していないと、あなたがたの初期の協会にエネルギーを浪費してしまうという立場をあなたはとっている」などは、あなたが自分自身に当てはめたもので、決してそのような意味ではありませんでした。この手紙は、あなたとシネット氏が事前に要求し、強く主張した一定の条件の下で、この協会への参加を希望するすべての人々の期待に関するものです。この手紙は全体としてはお二人のためのものであり、この特別な文章は一般の人々に適用されるものです。

あなたは、私があなたの「立場」を「ある程度」誤解しており、私があなたを「明らかに誤解している」と言っています。これは明らかに間違っているので、あなたの手紙から1つの段落を引用するだけで、完全に「私の立場を誤解」し、「明らかに私を誤解」しているのはあなたであることを示すことができます。「学校」を設立することを夢見ていたという考えを否定しようとするあなたが、提案されている「アングロ・インディアン支部」について次のように言うとき、誤った印象に悩まされる以外に何があるでしょうか。……「これは私の協会ではない。協会を立ち上げ、私がその中で主導的な立場に立つことは、あなた自身とチーフたちの願いであると理解していました」。これに対して私は、こう答えます。もし私たちが西欧大陸において、普遍的な同胞愛の先駆けとして、最高の教育を受けた人々の間にTS（訳注：神智学協会）の「支部」を広めることを常に望んでいたとしても、あなたの場合はそうではなかった、と。我々（チーフと私）は、計画されているAI協会（訳注：アングロ・インディアン支部のこと）に関して、そのようなことが我々の希望であったという考えを（たとえ我々がそれを望んでいたとしても）完全に否定します。種族間の兄弟愛を求める願望は、何の反応もなく、いや、最初から無視されていたので、私がシネット氏の最初の手紙を受け取る前に放棄されてしまったのです。彼は最初から、クラブや「魔法学校」のようなものの結成を促進することだけを考えていたのです。それは私たちの「提案」ではなく、私たちは「計画の設計者」でもありませんでした。それなのに、なぜ私たちの過ちを指摘しようとするのですか。発案者はマダム・Bです。Bが発案し、シネット氏がそれを採用しました。シネット氏は親協会の普遍的な同胞愛という基本理念を理解することができず、オカルト科学の研究を深めることを目的としている、と率直に認めたにもかかわらず、彼女はまず自分の直属のチーフの同意を得ることに成功し、次に私ができる範囲で協力することを約束しました。最終的には私の仲介により、彼女は我々の最高位のチーフの同意を得ました。しかし、この同意は新しい協会を普遍的同胞団の支部として設立し、その会員の中から数名の選ばれた人が、もし彼らが自分たちの条件を指示するのではなく、私たちの条件に従うことを選択した場合には、「ブラザー」の書面による指示のもとで、オカルト科学の研究を始めることを許可するという、明確かつ不変の条件のもとで得られたものであることを、どうか心に留めておいてください。しかし「魔術の温床」は我々は夢にも思っていませんでした。シネット氏やあなたが計画したような組織は、ヨーロッパ人には考えられませんし、インドでも不可能に近いものになっています。ヨーロッパで最大かつ最も有望なこのような学校は、この方向での最後の試みであるが、20年ほど前にロンドンで最も顕著に失敗しました。それはリットン卿の父親が中心となって、十数人の愛好家がクラブという名目で設立した、魔術を実践的に教えるための秘密学校でした。リットン卿の父はこの目的のために、エリファス・レヴィ、レガツォーニ、コプト・ゼルグヴァン・ベイなど、最も熱心で進取の気性に富む者や、メスメリズムや「儀式の魔術」の最先端の学者たちを集めていました。しかし、ロンドンの疫病神のような雰囲気の中で、この「クラブ」は早々に終焉を迎えました。私は６回ほどそのクラブを訪れましたが、最初からそこには何もなく、何もありえないと感じました。これが、イギリスのTSが現実的に一歩も進歩していない理由でもあります。彼らは名ばかりの普遍的な同胞団の一員であり、せいぜい静寂主義、つまり魂の完全な麻痺に引き寄せられているのです。彼らの願望は強烈に利己的であり、その利己性の報酬しか得られないでしょう。

また、私たちはこのテーマで文通を始めたわけではありません。シネット氏はマダムBが私たちの誰からも返事を出す許可や約束を得ていないうちに、自分の意志で「ブラザー」に２通の長い手紙を出したのです。Bは、我々の誰からもシネット氏に返事を出す許可や約束を得ていなかったし、我々の誰に手紙を送ればいいのかもわかりませんでした。彼女のチーフは手紙を出すことを真っ向から拒否したので、彼女は私に申し込んだのです。彼女への思いに動かされた私は、チベット語の神秘的な名前をみんなに教えてもいいと言って承諾し、友人の手紙に返信しました。その後、あなたの手紙が届きましたが、これは予想外のことでした。あなたは私の名前さえも知らなかったのです。しかし、あなたの最初の手紙は非常に誠実で、その精神は非常に有望で、世のためになることを行うのに開かれた可能性は非常に大きいと思われました。私がそれを読んだ後にユリイカと叫び、すぐにディオゲネスのランタンを茂みに投げ込まなかったのは、人間の、そして失礼ですが西洋の性質をあまりにもよく知っていたからに他なりません。とはいえ、この手紙の重要性を過小評価することはできず、私はこの手紙を由緒あるチーフのもとへ持っていきました。しかし、私がチーフから得られたのは、一時的に文通することを許可し明確な約束をする前に、あなたの心の内をすべて語らせることだけでした。我々は神ではないし、我々のチーフたちさえも神ではありません。チーフたちは希望を持っています。人間の本性は計り知れないものですが、あなたの本性は、私が知る限り、他のどの人よりも情熱的なものでしょう。あなたのこの前の書簡は、発覚とまではいかないにしても、西洋人の性格、特に現代の高度に知的なアングロサクソン人の性格についての私の観察に、非常に有益な付け足しとなりました。しかし、それを見ていないマダムBにとっては、まさに発覚のようなものでしょう。なぜなら、彼女は自分の観察力に対する思い込みや信頼を大きく崩すことになるからです。この問題におけるシネット氏の態度について、彼女はあなたと同じように勘違いしていたこと、そして、彼女ほどあなたと個人的に知り合ったことのない私が、彼女よりもはるかにあなたのことを知っていたことを証明することになるかもしれません。私は彼女にあなたの手紙を予言していたのです。彼女は、協会が全く存在しないよりは、最初はどんな条件でも良いから、後から一か八かやってみても良いと考えていました。私は彼女に、あなたは自分以外のどんな条件にも従う人ではなく、また、どんなに高貴で偉大な組織であろうとその設立に向けて一歩でも踏み出す人ではないと警告していました。彼女はこの考えに反発し、私がオカルト的な力を使ってあなた方に確かなテストを１つ与えるだけで、あなた方は満足するだろう、シネット氏は決してそうしないだろう、と断言しました。さて、お２人ともそのような証明を受けた後、結果はどうなったでしょうか？

シネット氏は信じており、それを決して後悔することはないでしょうが、あなたはだんだんと不快な疑念や最も侮辱的な疑念で心が満たされていきました。もしあなたがジェラムからの私の最初の短い手紙を覚えておいてくださるならば、私が心が毒されていることに気づくだろうと言ったことが分かるでしょう。その中で私が言及したのは、ボンベイ・ガゼットに掲載されたC・オルコットの手紙ではなく、あなた自身の心の状態だったのです。私は間違っていたでしょうか？ あなたは「ブローチ現象」を疑っているだけでなく、明らかに不信感を抱いています。あなたはマダムBにこう言いました。彼女は悪い手段も良い目的のためには正当化されると信じる人たちの一人かもしれない、と。そしてそのような行為があなたのような高い理念を持つ人の心を目覚めさせるような嘲笑をもって彼女を打ち砕くのではなく、あなたの変わらぬ友情を彼女に保証したのです。私への手紙にも、同じような疑心暗鬼の精神があふれています。自分自身には絶対に許せないこと、つまり欺瞞の罪を、他人には許せると自分に信じ込ませようとしているのです。親愛なる閣下、これらは奇妙な矛盾です。このような一連の貴重な道徳的考察、助言、そして真に崇高な感情を私に与えてくれたので、おそらく私の番になって、この点に関する一人の謙虚な真理の使徒、無名のインド人の考えを述べることを許可してくれますね。人間は自由意志を持って生まれ、理性を与えられた生き物であり、そこから善悪に関するすべての概念が生まれるのですが、それ自体が明確な道徳的理想を示すものではありません。一般的な道徳の概念は、まず目的や動機に関係し、その後で初めて行動の手段や様式に関係します。したがって、有名な宗教的策士のルールに従って善い目的のために悪い手段を使う人を道徳的な人とは呼ばないし、呼ぶこともないでしょう。ましてや、明らかに邪悪な、あるいは卑劣な目的を達成するために、一見善良で高貴な手段を使う人を道徳的な人と呼ぶでしょうか？ あなたの論理によれば、そしてあなたがそのような疑いを告白するならばマダム

Bは前者に、私は後者に分類されるでしょう。なぜなら、彼女にはある程度の疑いの余地を与えながらも、私に対してはそのような余計な予防措置を取らず、私が詐欺のシステムを構築したとはっきりと非難しているからです。私の手紙で使われている「本国政府の承認」に関する議論を、あなたは「非常に低い動機」と呼び、それに加えて次のような痛烈かつ直接的な非難をしています。「あなた方は、この支部（アングロ・インディアン）を仕事のために欲しいのではなく……母国の同胞を誘うために欲しいだけなのだ。あなた方はそれが偽物であることを知っているが、十分に本物のように見えるだろう」などと言っていました。これは直接的かつ積極的な告発です。私は、低俗で卑劣な手段、すなわち偽装によって、邪悪で意地悪な目的を追求した罪を問われているのです。……

このような非難を書きながらあなたは、計画された組織として、より壮大で高貴ではるかに重要なものを持っていたことを考えるのをやめましたね。それは、成功すれば、征服された国全体の安全と福祉を促進することです。あなたの個人的なプライドにとっては「低い動機」に見えるかもしれませんが、結局のところ、これまで不信と疑惑を持たれていた国全体の救済、征服者による被征服者の保護となるような手段を心配そうに探していたのだということです。あなたは自分が「愛国者」ではないことを誇りにしていますが、私はそうではありません。国を愛することを学ぶと同時に、人類をより一層愛することを学ぶのです。1857年にあなたが言うところの「低い動機」がなかったために、私の同胞はあなた方の銃口から吹き飛ばされたのです。真の博愛主義者であれば、インドの政府と国民の間でより良い理解を得ようとする願望を、無意味なものではなく、最も称賛に値するものと考えるのではないかと、私は思うのですがいかがでしょうか。「人類のためにならない」、「自分の世代のためにもっと役立つことができない」などの理由で、「知識とその基礎となる哲学のためのイチジク」とあなたは言います。しかし、そのような善を行う手段を提供されると、あなたは軽蔑して背を向け、「おびき寄せ」や「偽物」と私たちを嘲笑うのです。本当に素晴らしいのは、あなたの驚くべき手紙に含まれる矛盾です。……

そして、同胞の「報酬」や「承認」という考えをあなたは大笑いしています。「私が求める報酬は、私自身の自己承認を得ることだ」とあなたは言う。自分の善良で高貴な行為が高い理想となり、模倣への最も強力な刺激となるような、世間一般のより良い部分の裏付けとなる評決をほとんど気にしない「自己承認」は、高慢で傲慢なエゴイズムに他なりません。それは、すべての批判に反対する自分自身であり、「私の後に大洪水が来る！」（Apres

moi – le deluge!）と、いつものように軽口をたたくフランス人のようです。「エホバが存在する前に、私が存在していた」と人は言うが、それは現代のすべての知的イギリス人の理想です。AI支部結成のための総合的な計画を起草していただくということで、これほどまでに皆さんを楽しませる手段になれたことを嬉しく思いますが、私の意味を完全に誤解しているという点で、皆さんの笑いは時期尚早であったことを改めて申し上げなければなりません。もし私があなたに、オカルト科学を教える組織の編成や「魔術学校」の計画への協力を求めていたら、あなたが持ち込んだ「別の流体の中の流体の動きに関する難解な問題」を解くように求められた無知な少年の例は、ちょうど良いものだったかもしれません。このように、あなたの比較は的外れで、ちょっとした皮肉は誰にも通じません。私がこの話題に触れたのは、単に計画中の協会の総合的な計画と外面的な管理に関連しているだけで、その秘教的な研究つまり、「魔術学校」ではなく「普遍的な同胞団の支部」に、全く関連していないからです。前者の編成は後者のための必須条件ではありません。英国人で構成され、英国人と原住民との間をつなぐ役割を果たすAI支部の組織（条件として、土から作られた子らの遺産である秘密の知識を共有したいと考える者は、少なくともこれまで原住民に与えるのを拒否してきた特権を与える用意がなければならない）などの問題においては、一般的な計画を立案する能力は、我々よりも英国人の皆さんの方がはるかに優れていると言えるでしょう。あなた方は、我々が受け入れられないであろう条件を知っています。私は計画の骨子を求めたのに、あなたは私が精神科学の分野で与えられるべき指示への協力を切望していると想像したのですね。しかし、シネット氏は一見して私の願いを理解してくれたようです。

また、あなたはインド人の精神に慣れていないようで、こう言いました。「私のように超越的な真理を理解し同化する準備ができているインド人は、１万人に１人もいない」。しかしこう考えるのが正しかったのです。「英国の科学者の中には、私（あなた）よりもこれらの初歩（オカルト的知識）を受け取ることができる心を持った者が６人もいない」。あなたは原住民に関して間違っています。インド人の心は、最も超越的で最も難解な形而上学的真理を素早く明確に認識することに、非常に開かれています。無学の人の中には、西洋の最高の形而上学者がしばしば逃してしまうようなことを、一目で捉える人もいるでしょう。あなた方は、物質的な知識のあらゆる分野で私たちよりも優れているかもしれませんし、間違いなくそうでしょう。霊的科学では、私たちはこれまでも、そしてこれからもあなた方のマスターであるでしょう。

しかし、あなたに尋ねさせてください。半文明人である私は、優れた民族に属する人の慈善心、謙虚さ、親切心をどう考えることができるでしょうか。私が知っている人は、人生のほとんどの状況において高貴な心を持ち、公正で、心優しい人ですが、彼は偽りのない軽蔑をもってこう主張したのです。「もしあなたが、結果を気にせず、盲目的に突進する人を望むなら(１)、オルコットにこだわるべきです。脳があなたの目的で効果的に機能する上流階級の男性が必要な場合は、覚えておいてください……」。親愛なる閣下、私たちは人々に目隠しをして突進させることを望んでいませんし、許可されない限り絶対に明かさないという厳粛な誓約のもとに学んだことを愚か者たちに明かしてしまうような、試練を受けた友人たちを、たとえ超一流の人を得るチャンスのためであっても、見捨てる覚悟はありません。また、自発的でなければ誰にも働いてもらえないということも特にありません。我々は、真の無欲な心、恐れを知らない、人を信頼する魂を求めています。そして「より高い階級」の人や、はるかに高い知性を持つ人が、自分自身で光への道を模索するのを喜んで任せるのです。そのような人たちは、私たちを下位の者としか見ないでしょう。

私は、あなたの手紙からのいくつかの引用と、それによって呼び起こされた率直な答えが、私たちがどれほど仲良しこよしの関係から離れているかを示すのに十分であると信じています。あなたは、激しい闘争心と、失礼ですが、自分の想像力によって呼び起こされた影と戦いたいという願望を持っています。私は、あなたの最初の手紙に一般論として答えるのがやっとだったのに、あなたから3通の長い手紙を受け取るという光栄に浴しました。あなたの希望に従うことを積極的に拒否したことはありませんし、あなたの質問にはまだ一つも答えていません。一週間も待てば未来に何が待ち受けているのか、どうしてあなたが知ったでしょうか。あなたが私を会議に招待したのは、私たちの行動様式の欠陥や弱点、そして人類を悪の道から変えられないと思われる原因を私に示すためとしか思えません。そして手紙の中で、あなたは自分が自分自身に対する法則の始まりであり、中間であり、終わりであることをはっきりと示しています。では、なぜわざわざ私に手紙を書くのでしょうか。あなたが「パルティアの矢」（訳注：最後の一矢）と呼んでいるものも、決してそのような意味ではありません。絶対的なものを手に入れることができないと、相対的な善を非難したり過小評価したりするのは私ではありません。あなたの「小鳥」は、あなたがそう信じているように、間違いなくその道で多くの良いことをしてきました。私は、人類とその福祉は少なくとも鳥類学と同じくらい高貴な研究であり、後者は鳥類学と同じくらい望ましい職業であると述べたことで、不快感を与えようとは夢にも思いませんでした。しかし、肉体としての私たちが不死身ではないというあなた方の死別の言葉には、退却するパルティア人を動かした精神が全くないとは言えません。それはともかく、我々は知性だけに頼る文明に邪魔されず、知られずに生きていくことに満足しています。古代の芸術や高度な文明が復活しても、我々は何の心配もしません。これらは、プレシオサウルスやメガテリウムがそれらの時代に復活するのと同様に、必ずやより高い形で復活するからです。私たちには常に繰り返されるサイクルを信じる弱さがあり、過ぎ去ったものの復活を早めることを望んでいます。それを妨げようと思ってもできません。「新しい文明」は古い文明の子供に過ぎず、死んだ者が墓から出てくるのは永遠の法則に任せるしかないのですが、それでも我々は歓迎すべき出来事を早めたいと思っています。恐れることはありません。「過去の遺物に迷信的にしがみつく」ことはあっても、私たちの知識が人の目から消えてしまうことはありません。それは「神々の贈り物」であり、すべての中で最も貴重な遺物です。神聖な光の保持者たちは、これほど多くの時代を安全に渡ったわけではなく、現代の懐疑主義の岩の上で難破することになりました。私たちのパイロットは経験豊富な船乗りなので、そのような災害を恐れる必要はありません。疲れた歩哨の代わりになるボランティアは必ず見つかりますし、世界は現在の一過性の状態ではひどいものですが、時折、数人の人員を提供してくれるでしょう。私たちが「何らかのサイン」を出さない限り、あなたは「この問題でこれ以上動くつもりはない」のですか？ 親愛なる閣下、私たちは自分たちの義務を果たしました。あなたの訴えに応えましたが、今はそれ以上の行動を取るつもりはありません。カントの道徳的な教えを少し勉強し、それを多少注意深く分析した私たちは、道徳的な行動の方法を定義する義務の形式（das Sollen）に関するこの偉大な思想家の見解でさえ、それに反する彼の一方的な肯定にもかかわらず、私たちが理解するような無条件の絶対的な道徳の原則の完全な定義には至らないという結論に達しました。あなたの手紙には、このようなカント的なニュアンスが込められています。あなたは人類を愛しているので、自分の世代がその恩恵を受けられなければ「知識」そのものを否定すると言っています。しかし、このような博愛主義的な気持ちは、知能が劣っていると見なした人に対して、あなたに慈悲の心を抱かせることすらないようです。なぜでしょう？ それは、西洋の思想家たちが自慢する博愛主義が、普遍性を持たないからです。すなわち、道徳的で普遍的な原理の確固たる基盤の上に確立されたことがなく、理論的な話よりも高くなったことがなく、主にどこにでもいるプロテスタントの説教師たちの間では、単なる偶然の現れにすぎず、認識された法則ではないのです。最も表面的な分析によれば、人間の本性における他の経験的な現象と同様に、道徳的な活動の絶対的な基準、すなわち効率的な行動を生み出すものとして捉えることはできません。経験にもとづく性質として、この種の博愛主義は愛のようなものですが、偶発的で例外的なものであり、利己的な好みや親和性を持っているようなものなので、必然的にその恩恵的な光線で全人類を暖めることはできません。これが、この時代の精神的な失敗と無意識のエゴイズムの秘密だと私は思います。そして、善良で賢明なあなたは、無意識のうちにその精神の型となっていますが、普遍的な同胞愛としての協会に関する私たちの考えを理解することができず、それゆえに顔を背けているのです。

あなたの良心は、あなたが「隠れ馬（訳注：猟師が獲物に近づくとき姿を隠すための馬[馬形のもの]）のように、何人もの隠れた操り人形師の操り人形」にされることに反発しているという。「あなたたちは我々に会うことができないのに、我々の何を知っているというのでしょうか？ 我々の目的や目標、あなたが判断できないことの、何を知っているのですか？」……とあなたは尋ねる。奇妙な議論だ。そして、本当に私に直接会えば、我々を「知る」ことができる、あるいは我々の「目的と目標」をより良く理解することができると考えているのでしょうか？ 残念ながら、過去にこの種の経験がなければ、あなたの自然な観察力がどんなに鋭くても役立たずと言わざるを得ないでしょう。親愛なる閣下、私たちのBaharoopiasでさえ、最も鋭い政治における総督代理といつでも勝負できることを証明できますが、未だかつて１人も見破られたことはありませんし、認識されたこともありません。あなたが「ブローチ」の詳細について疑念を抱いたとしても、あなたの鋭い洞察力により、ヒューム夫人が他の目的ではなく特定の目的を考えるように影響を与える強い意志があるという理論に基づいてのみ説明できる、この事件の重要な特徴があります。そして、もし病弱なマダムBにそのような力があるとすれば、あなた自身もまた、彼女の10倍も強い訓練された意志に屈することにならないと言い切れますか？ 私は明日あなたのところに行き、招待されるままにあなたの家に身を置き、24時間以内にあなたの心と体のすべてを支配することができますが、あなたは一瞬たりともそれに気づくことはありません。私は善良な人間かもしれませんが、あなたが知っている限りでは、私を服従させ、私に日々屈辱を与えているあなたたち白人民族を心底憎み、その白人民族の最高の代表者の一人であるあなたに復讐する、邪悪で陰謀を企む策士である可能性もあります。もし、外典的なメサリズムの力だけが使われたとしたら、それは悪人でも善人でも同じように簡単に身につけられる力ですが、それでも、あなたが誘った男が優れたメサリストであったとしても、あなたは自分に仕掛けられた罠から逃れることはできないでしょう、なぜなら、あなたは肉体的な観点から見て、驚くほど簡単な対象だからです。「しかし、私の良心は……私の直感は……」と、あなたは反論するかもしれません。私のようなケースでは役に立たない。あなたの直観力で感じるのは、とりあえず実際にあったものだけで、良心については、カントの定義を受け入れるのですか？ あなたはカントと一緒で、どんな状況下でも明確な宗教的観念が完全に欠如していても、時には善悪についての確固たる観念が全くなくても、人間は自分の内なる道徳的認識、つまり良心という確かなガイドを持っていると信じているのでしょうか？ 最大の過ちです。この道徳的要素の恐るべき重要性にもかかわらず、それには１つの根本的な欠陥があります。すでに述べたように、良心はソクラテスが熱心にその指示を聞き、すぐに従ったあの悪魔によく似ています。あの悪魔のように良心は、ひょっとしたらやってはいけないことを教えてくれるかもしれませんが、何をすべきかを導いてくれることはありませんし、私たちの活動に明確な目的を与えることもありません。そして、この良心ほど、訓練された意志によって簡単に眠りに誘われ、完全に麻痺してしまうものはありません。あなたの良心は、人が一たび敷居を超えてあなたを取り巻くオーラをコントロールしたならば、その催眠術師が真のアデプト（熟達者）であるか、非常に巧みな曲芸師であるかを決してあなたに示すことはないでしょう。あなたはフランケンシュタインの怪物が生まれないように、鳥の採集のような罪のない仕事以外は控えるように言っていますが、それは間違いです。……意思と同様に想像力が生み出すものです。疑惑は想像力を刺激する最も強力な手段です。……気をつけてください。あなたはすでに、将来の恐ろしい怪物の芽を自分の中に生み出しています。あなたの純粋で最高の理想を実現する代わりに、いつの日か幻影を呼び起こすかもしれません。その幻影は、あらゆる光の通り道を遮り、あなたを以前よりもひどい暗闇の中に置き去りにし、最後まであなたを苦しめるでしょう。

また、私の率直さが不快感を与えないようにとの願いを込めて、親愛なる閣下へ

あなたの最も従順なサーバント、

Koot' Hoomi Lal Sing

A. O.ヒューム様

＊＊＊＊＊＊＊

訳注…AI（アングロ・インディアン）支部とは、1881年8月21日にロッジを結成したインド在住のヨーロッパ人神智学者たちのグループ、シムラ・エクレクティック神智学協会のこと。